

成寿第十九号に寄せて。

アンコール・ワットは気温四十度のま
ばゆい静寂に包まれていた。黒田方丈さ

まは、石

畳の西参

道を歩み

ながら、

静寂の中

に潜むい

くつかの

戦乱の足

音を聴き逃さなかった。のみならず、剣

戈、銃声、叫喚の隙間から聴こえる、十

二世紀以来の読経の声をも逃さなかつ

た。清らかな泉のように湧いてくる仏心

の声を、方丈さまは合わせた掌で聴いて
いた。「遺跡の修復は、仏心の救済なのだ。

そのため

にこそ、

人材を育

てなけれ

ばなら

ぬ」。

黒田方丈さまは

仏心の声を聴いていた

赤間 義徳

遣留学僧

海外派

という大事業の確信を深めながら、方丈
さまは中央塔を正面に仰ぎ、仏法の王道
を踏み締めていく。